

高岡町埋蔵文化財調査報告書第4集

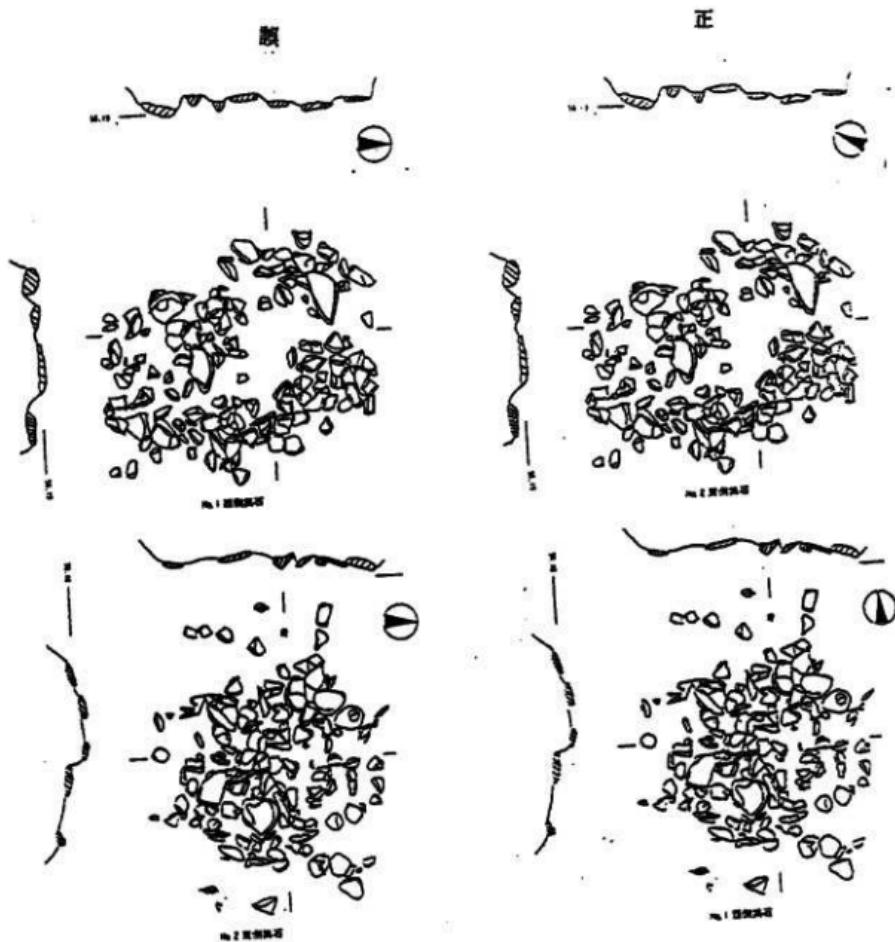
橋山第1遺跡C地区  
調査報告書

1994

宮崎県高岡町教育委員会

「横山第一遺跡C地区」正誤表

ページ	誤	正
P5 第3図	N O 1 西側集石	N O 2 東側集石
P5 第3図	N O 2 東側集石	N O 1 西側集石
P5 第3図	第3図集石遺跡平面図	第3図集石遺跡平面図



## 序 文

近年埋蔵文化財の発掘調査は一般的に関心が高まり、発掘調査を取り巻く環境は、一段と重要さを増しております。そのため、高岡町でも、町内の周知遺跡の詳細な分布調査を終わらせ、その成果に基づいて、今年度から開発に伴う調査を目的とした事前総合調査を実施しました。この報告書はその調査の成果をとりまとめたものです。この報告書が、今後の文化財保護の指針となることを期待します。最後に、この調査にあたり御協力頂いた方々に厚くお礼申し上げます。

高岡町教育委員会

教育長 篠原和民

## 例 言

1. 本書は高岡町教育委員会が平成4年度に民間企業宮崎県中古自動車販売商工組合との委託契約を締結し実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 調査の次の体制で行った。

調査主体 高岡町教育委員会

教育長 篠原 和民

社会教育課長 岩崎 健一

社会教育係長 本田 正雄

調査担当 社会教育係主事補 山本 賢一郎

庶務担当 社会教育係主事 烏田 正浩

3. 報告書作成にあたっては、[REDACTED]の協力を得た。
4. 文責は全て山本にある。

## 目 次

第1章第1節 橋山第1遺跡C地区の立地と環境.....	3
第2節 調査の目的.....	4
第2章第1節 遺構.....	5
第2節 石器.....	6
第3節 上器.....	7
第3章 まとめ.....	8

## 挿 図 目 次

第1図 橋山第1遺跡C地区の位置と周辺地形図.....	3
第2図 橋山第1遺跡C地区地形測量平面図.....	4
第3図 集石造構平面図.....	5
第4図 石器実測図.....	6
第5図 上器実測図.....	7

## 図 版 目 次

図版1 南側からの全体写真.....	9
図版2 No. 2 の集石造構.....	9
図版3 No. 1 の集石造構.....	9
図版4 全体写真.....	10

## 第1章第1節 橋山第1遺跡C地区の立地と環境

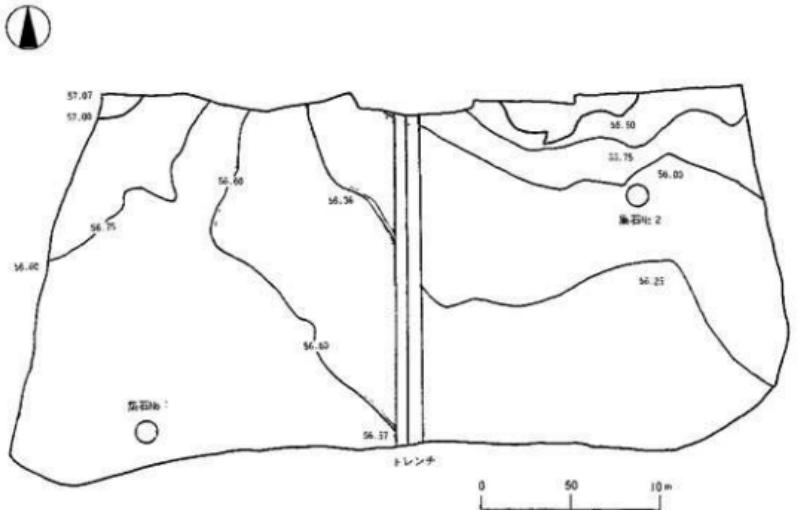
橋山第1遺跡C地区は、宮崎県東諸県郡高岡町大字花見池ノ内1714番3他に所在する。高岡町の中央に大淀川が流れおり、橋山第1遺跡C地区は台地から大淀川より延びる尾根の一端に位置している。大淀川はその支流となる小さな河川が谷と台地を形成している。橋山第1遺跡C地区に隣接する北西よりに縄文早期の橋山第1遺跡A・B地区が、さらに北側には裴野遺跡では土師器の杯、高台付きの椀、蓋等が出土している。C地区の周辺には県指定の古墳時代の墳丘墓があり、周辺から採取された二重口縁壺・鉄斧等が採取された高岡古墳（二ツ塚古墳）が所在する。



1. 橋山第1遺跡C地区 2. 橋山第2遺跡 3. 高岡古墳 4. 橋山第3遺跡  
5. 池ノ内遺跡 6. 天正寺跡 7. 学頭遺跡 8. 城ヶ峰貝塚 9. 八児遺跡 10. 稲佐城跡  
第1図橋山第1遺跡C地区の位置と周辺中央地形図

## 第2節 調査の目的

橋山第1遺跡C地区は高岡町の花見工業団地付近の民間開発に伴う開発予定地であるために、民間企業宮崎県中古自動車販売商工組合と高岡町教育委員会と協議して、宮崎県中古自動車販売商工組合による委託によって、発掘調査を行った。この遺跡周辺は当教育委員会が平成2・3年に調査を行っており橋山第1遺跡A・B地区の遺跡が所在する。C地区は、A・B地区の遺跡の範囲内に近接していたため周知の埋蔵文化財遺跡として確認するために、発掘調査を行った。発掘調査期間は5月6日から31日までの一ヶ月間実施された。前回試掘調査では遺跡の広がりと遺跡全体の包含層および土層の堆積状況の把握ためにトレンチを東西南北に設定している。今回の調査では遺跡全体の広がりと遺物の包含層および上層の堆積状況の把握のためのグリットを設定した。



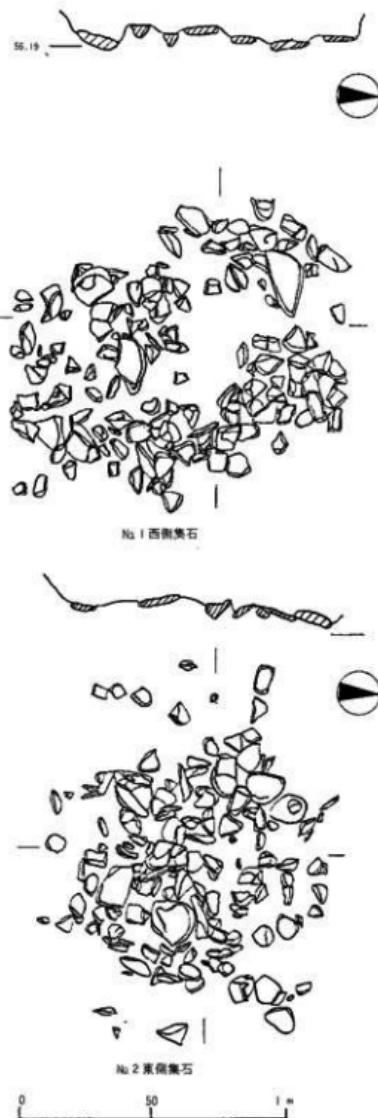
第2図 橋山第一遺跡C地区地形測量平面図

## 第2章第1節 遺構

橋山第1遺跡C地区の調査区から2ヶ所の集石遺構が検出されており、これらの集石遺構の礫の大きさは拳大ぐらいの大きさの角礫等による礫の構成となっている。

この橋山第1遺跡C地区の調査区では破損礫等が散漫に分布しており、これらの集石は、廃棄された状態とも考えられる。この集石遺構あるいは礫の散漫な状況からみて小集團等がキャンプサイド的に短期間に居住をしていたものなのか、あるいは、ただ廃棄されたものではないかと考えられる。しかし、集石周辺には焼上等も見られなかった。この橋山第1遺跡C地区から2つの集石遺構等が認められるが、熱を受けている受熱礫、熱を受けていない不受熱礫が確認された。しかしこれらの集石ないし散漫に分布している状況である。

集石遺構の中に混じって石器が1点認められたが、この石器の器種は剝片であり、礫とともに混じって廃棄されたものではないかと考えられる。



第3図集石遺跡平面図

## 第2節 石器

### 1 石鎌

石材は姫島産の黒曜石である。この石鎌は未成品であり、全体的に粗雑であり、左右対象になっていないことが認められる。

### 2 環状石斧

石材は頁岩であり、円盤形の周縁に刃をつけ、中央に貫通孔をもつ円盤状の磨製石斧を環状石斧という。出土した環状石斧は半分程欠損しており使用されたと思われる使用痕が認められる。この環状石斧は欠損しているので使用中に何かのアクシデントにより折れたのではないかと考えられる。宮崎県で見られる環状石斧の製品は約3~4例程完形品が確認されている。

### 3 剣片

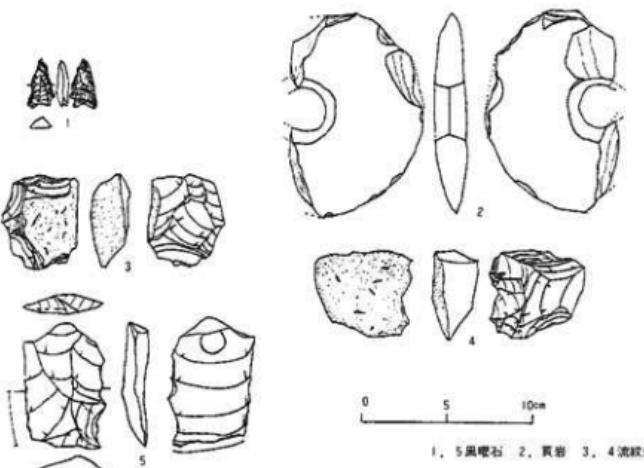
石材は流紋岩であり、自然面を残している。粒子は緻密であるが白い褐色の紋様が認めらず、原石を分割するさいに打面等が欠損しているのではないかと思われる。

### 4 剣片

石材は3と同様の流紋岩であるが、礫を分割していく段階での荒削れ段階の剣片である。自然面を残しているが一部風化している面が若干見られる。

### 5 使用痕剣片

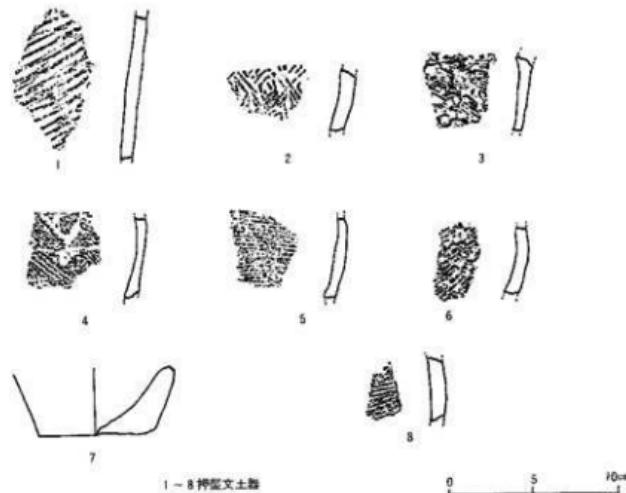
石材は黒曜石であり、廃土から出土したものであり、表採品である。使用痕剣片は綫長の剣片であり、長さ約7.8cm・幅5.5cm・厚さは1.0cmである。打面は單剣片打面であり一部自然面を残している。



第4図石器実測図

### 第3節 上器

- 押型文土器である。焼成は良好であるが、若干赤色している面が認められる。この押型文上器は深針の底部と思われる。
- 山形押型文の紋様と思われ、口縁部付近に刻目をもつ突帯を有している。手向山式あるいは影響を受けたものではないかと思われる。
- 押型文土器であるが所々摩滅している面が認められる。焼成は良好ではないにしろ表面の紋様が剥落した様な風にみられる。裏面を見るとひび割れが認められ作成段階にはいったものではないかと思われる。
- 山形押型文土器であり、焼成は良好である。口縁部の付近に刻目等が認められる。
- 押型文土器である。口縁部の一部と思われ焼成は良好である。若干石英・白色粒を少量含む。
- 押型文土器であるが焼成は粗雑であり、多量に石英・白色粒が多く含まれていることが認められる。
- 押型文上器の底の底部と思われる。底部は比較的厚みがあり焼成は良好と思われる。深針のものと推測される。
- 比較的厚みのある押型文上器であるが、焼成は良好である。石英・白色粒はあまり認められていない。



第5図 土器実測図

### 第3章　まとめ

高岡町では、北東よりに遺跡群等が多く分布しており、主に台地上に遺跡等が認められる。ここ橋山第1遺跡C地区の周辺にも縄文前期から古墳・中近世等の遺跡が点在する。

今回の発掘調査は、周知遺跡範囲からはずれてはいたが、わずかながら縄文時代早期の遺跡が確認された。

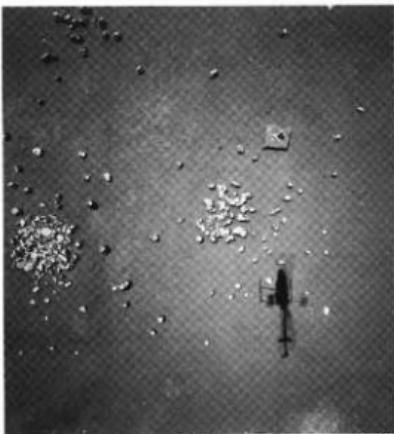
橋山第1遺跡C地区からの縄文時代早期の出土遺物は土器片、石器等が出土している。

この橋山第1遺跡C地区の資料の中には、外から搬入されたものと考えられ、環状石斧等、石材では姫島産系の黒曜石等の資料からも伺える。集石は円礫、角礫で構成されており、破碎された礫から見ても、使用された痕跡も認められない。

橋山第1遺跡の出土遺物から見ていくと、当時の人々の生活の様相が見られなく、この遺跡ではキャンプサイド的なものではなかったかと考えられる。橋山第1遺跡C地区の周辺にある遺跡からの出土資料及び橋山第1遺跡C地区的資料等をもう一度再検討を行って、縄文前期の人々の生活や交易等から高岡町の歴史がわかっていくのではないだろうかと思われる。



図版 1 南側からの全体写真



図版 2 No.2 の集石造構



